



社会福祉法人 聖隷福祉事業団
医療保護施設・地域医療支援病院

総合病院 聖隷三方原病院

SEIREI MIKATAHARA GENERAL HOSPITAL

おおぞら

第197号

2020年7月1日発行

発行責任者 荻野和功

編集者 木部哲也

<http://www.seirei.or.jp/mikatahara/oozora/>

編集者交代と 今後のおおぞらについて

木部 哲也

長らくおおぞら通信の表紙原稿を執筆いただいた横地先生のご退職に伴い、編集者の交代の挨拶と共に「今後のおおぞらについて」ということで少し書かせていただきます。

おおぞら通信の読者の方々にはご承知のように、その表紙原稿には、横地先生により、重症心身障害に関わる様々なテーマについて記されてきました。いくつか挙げますと、重症心身障害の定義、施設の役割、社会制度や法律の変遷と対応、支援の対象や考え方、生活支援の具体的中身と意義、職員の役割、健常児とは違う発達、コミュニケーションの方法と内面理解の実践、特異的な障害像の考え方と取り組みなどあり、特に重要とされるものは繰り返し述べてきてきました。そこには一貫して「利用者の方たちが、いかに障害が重くても、その人にとって最良の人生を送ってもらうようにするのが私

ちの職業上の責務である」という理念が込められています。また、その実践においては、きめ細かな観察や客観的評価（科学性）への取り組みの重要性が述べられています。

私が所長の職に就いたのは、2014年12月です。すでに5年を過ぎているということになります。その間、社会制度や法律の変遷の中で主に医療的な支援について学び、実践する機会は多くありましたが、おおぞら通信に書かれていたような、「その人にとっての最良の人生を送ってもらうための生活支援」については、これから十分な時間が取りながら具体的な実践について学ぶ状況です。幸い、おおぞらには高い意識をもって支援の質の探求、実践に取り組む土壌があります。これまで、療育学会などを通じてその独自の取り組みを発信し、高い評価を受けてきました。私自身はこれら財産を生か

し、更に新しい発想も取り入れながら、より良い支援につなげていければと考えております。

一方、この5年間で、私自身重症心身障害の医療や福祉の現場で多くの課題に直面しました。おおぞらは、2011年の増床以降、入所機能に加え大きな在宅支援機能を持ち在宅支援を行っています。運営方針として、「十分な在宅支援機能を持つこと」そして「常時入所施設に空きがあること」により、できるだけ長く在宅で過ごして、在宅が困難となったとき速やかに入所ができるよう支援していくことを掲げ、実践しております。今後在宅支援のニーズが増え続けた場合にどのように対応していくかは大きな課題です。マンパワーが多くなっている中で、どのように継続していくか、また、一般医療界の理解不足のなかでどう連携していくかなどの問題があります。こういった問

題は一施設だけで解決するものではありません。地域、あるいは社会全体で考えていかなければならないと思います。

私たちは、「自分はこの人生を送ってよかったと思えるような人生経験」に相当するものを「生きがい活動」と呼び、この活動に多大なエネルギーを注いでいます。重症心身障害者が人との関りの中でどのように他者の心を読むのか（聴くのか）、職員はまなざしの変化などからそれを正しく読み取る努力をし、さらなる支援につなげる努力をしています。おおぞら通信では今後もそれら支援の在り方や意義について発信していきたいと思えます。



横地分類

「移動機能」、「知的発達」、「特記事項」の3項目で分類し、以下のように表記する。

例：A1-C, B2, D2-U, B5-B, C4-D

〈知的発達〉

E6	E5	E4	E3	E2	E1	簡単な計算可
D6	D5	D4	D3	D2	D1	簡単な文字・数字の理解可
C6	C5	C4	C3	C2	C1	簡単な色・数の理解可
B6	B5	B4	B3	B2	B1	簡単な言語理解可
A6	A5	A4	A3	A2	A1	言語理解不可

〈特記事項〉

C: 有意な眼瞼運動なし
 B: 盲
 D: 難聴
 U: 両上肢機能全廃
 TLS: 完全閉じ込め状態

〈移動機能〉

戸外歩行可	室内歩行可	室内移動可	座位保持可	寝返り可	寝返り不可
-------	-------	-------	-------	------	-------

あさひの

日常生活

成瀬 祐子

Aさん（横地分類A1）は、近くで楽器の音が聞こえると真剣な表情で聞いています。特に太鼓の音に耳を澄まして聞き、一定のリズムが続いた後に速くなったり遅くなったりするリズムに変わると体の動きを止めてよく聞いていました。また、歌のリズムに合わせて

たタッチングでは、節目ごとにタッチングが入る歌が繰り返されることで徐々に表情が明るくなりました。そこで、ゆっくりとした一定の速さで歌の節目ごとに楽器の音が鳴る歌いかけの活動を行いました。「カレライスのうた」では、歌の合間に鈴と太鼓の音を入れて歌いかけました。「にんじん」（鈴）ジャンシャントング「たまねぎ」（太鼓）トントング・と1番が始まるとじっと動きを止めて真



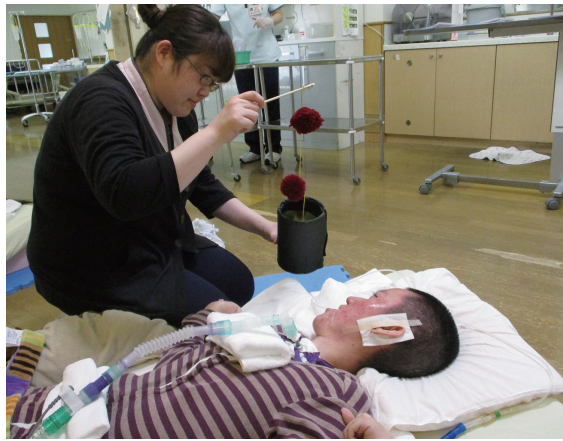
剣な表情で聞いています。2番になると「おしお」（鈴）ジャンシャング「カレールー」（太鼓）トントングと一定に続く歌と楽器の音の繰り返しのリズムを明るい表情で聞いていました。そして3番目では、「ムシャムシャ」（鈴）ジャンシャントング「モグモグ」（太鼓）トントングのフレーズが始まると擬音語の響きと繰り返される楽器の音のリズムに気持ち乗ってきて身体を小刻みに揺らしながら聞いていました。最後に「もりもり わいてきた」と終わると、表情を緩ませて身体を大きく動かしています。

紙コップを1個ずつ置いていくと、紙コップの動きを見えています。そしてピラミッド状に積み上がるのとじっと身体を動かして見えました。次に「10, 9, 8...」と数えながら1個ずつ紙コップを下げていく

した。一定のテンポで続く歌の合間に鈴や太鼓の音が鳴ること、歌と楽器の音が交互に鳴る変化や、楽器の音の違いに気付き面白みを感じているようでした。

と、徐々に目の前からなくなっていく動きを見ながら表情を緩めていました。紙コップが全てなくなり、最後に「0」と言いながらゆっくりと両手を広げて終わるとそれまでとは違う動きに気付いて手の動きに注目していました。繰り返すと、「0」の声や手の動きに期待感があり、変化が起こる前に表情を緩めていることもありました。声のリズムと同時に紙コップの動きがあることで動きのリズムに注目していました。また、積まれて広がっていく形の変化や徐々になくなっていく変化が良いようでした。





また、Aさんは隠れているものが出てくる所や、ものが隠れたときにじっと隠れた所を見ていることがあります。そこで出てくる、隠れる動きの繰り返しから次への期待を持てるような活動をしました。紐に「ポンポン」を4つつなげたものを使って、1つ2つ…とポンポンをゆっくり缶から出て、またゆっくりと缶に隠れる動きを見ました。Aさんは、缶から出てくるポンポンが2つ目までは缶の口から出て

Aさん（横地分類A1）は普通の生活の中で人の動きをよく見ています。側にいる他利用者と職員が活動をする様子や自分に近づいてくる職員の動きをじっと見ています。その時の眼差しから、次に起こることを期待しているようにもみえます。Aさんには、色水を白い画用紙の上に垂らし、垂れていく動きや色水が広がっていく動きを感じられる活動をしました。色水が

あすかの 日常生活 井藤 麻理子

垂れて出てくると、Aさんはそれをじっと集中して見るとに期待しているようでした。始めは色水が出てくる所だけを見ていましたが、繰り返し見ると画用紙に落ちた色水も見られるようになり、画用紙の上に広がっていく動きや垂れるような動きをよく見ていました。Aさんは、「色水が出てくる、落ちる、広がる」というそれぞれの動きの変化に興味を持って見ているようでした。

くるのを見ていました。3つ目からは、出てきたポンポンを上から下まで確認するように見ていました。4つ目が出終わると、Aさんはポンポンの出でてきた所を少し見つめた後に、職員の顔を見て口元を緩ませていました。ポンポンが出終わったことを感じているようでした。その後、ポンポンがゆっくりと缶の中に戻っていくと、Aさんはポンポンの動きをじっと見ていました。そしてポンポンが全て缶の中に入れ終わると、缶の中を気にするように見ていました。今度は缶をひっくり返し、そこからポンポンがバラバラ出てくるとAさんはそれを見ながら頬を緩ませ、ゆっくり出てきたところから一気に出てきたことに面白さを感じているようでした。



警察との合同防犯訓練



2月18日、細江警察署指導の下、防犯訓練を実施しました。毎年訓練を実施するようになり今年で4回目となります。

昨年までは刺股を使用し非常通報装置を使用して県警本部へ緊急通報を行う訓練でしたが、今回は防犯対策DVDの視聴と防犯の心構えの講義に内容を変更して訓練を行いました。

今後も、警察署との連携を深め定期的に訓練を継続していくことで、職員一人ひとりの防犯意識を高めていくよう取り組んでまいります。



新入・異動職員紹介

こだま 池永 仁美

4月よりあおばに配属になりました。異動して1ヶ月が経ちますが、個々の利用者にあわせた支援に驚くことばかりです。私も利用者の思いに寄り添った看護ができるように頑張りたいと思います。ご迷惑をおかけすると思いますがよろしくお願ひ致します。

こだま 大地 ナナ子

私は、この施設に来て初めて、重症心身障害児を受け持ちました。働く中で、利用者それぞれが大切にしているものや生活があることが分かりました。利用者の方々が毎日幸せに暮らせるように、看護を通してサポートしていきたいです。

あすか 山崎 里依子

2年の育児休暇を頂き仕事復帰しました。重症心身障害者の方と接する機会は初めてで、分からないことも多く毎日必死ですが、とても新鮮な気持ちです。優しく丁寧なケアを心掛け一日でも早く利用者との距離が縮まるよう頑張りたいと思います。

ほくと 片橋 萌香

4月からほくとに配属になりました。まだまだ分からないことばかりでご迷惑をおかけすることもあると思いますが、利用者が安心して楽しく過ごせる場所を提供できるよう精一杯頑張ります。

こだま 徳増 佳実

先輩方に教わったことや、自分のこれまでの経験をいかしながら、利用者にとって快適に生活出来る場を作っていきたいと思います。よろしくお願ひします。

こだま グェンティアンガー

学生時代おおぞらで2年間アルバイトをやらせていただきました。そう言っても正職員になってから新しいこと勉強しないといけないことがまだまだいっぱいです。利用者一人一人のニーズを把握できその方が望んでる生活を支援できるようになりたいと思います。

2016年から来日してもう5年目になりますが日本語がまだ少ししか分かりません。言葉の壁を越えるのがもちろん大変ですが、文化の壁はそれより大きいです。入社してから周りの職員の温かい支えを頂き介助のしかたから歌の歌い方まで分かりやすく詳しく教えていただき、本当に助かります。

皆さんの支えのお陰で、私は前より少しでも自信を持つようになり、これから日本語も介護技術も上達できるように一所懸命頑張ります。

うらら 武藤 唯衣

4月からうららに配属になりました。まだまだ未熟でご迷惑をおかけすることもあると思いますが、利用者やそのご家族に寄り添った支援が出来る様に頑張ります。よろしくお願ひします。



新入職員 4名
よろしくお願ひします。

苦情解決委員会

2019年10月～2020年3月

公表する苦情はありませんでした。

	3月	4月
ショートステイ 利用者数 (延べ利用日数)	61人 (354日)	45人 (187日)
放課後デイ 利用者数 (延べ利用日数)	47人 (128日)	47人 (99日)
ボランティア 参加人数 (グループ数)	0人 (0グループ)	0人 (0グループ)
実習者数 (グループ数)	0人 (0グループ)	0人 (0グループ)